

# 令和4年度「山形学」講座第1回 実施報告書(HP版)

- ◆開催日時：7月24日(日) 13:30～16:00
- ◆会場：遊学館3階第1研修室
- ◆テーマ：大テーマ「食」をめぐる山形の地域課題  
第1回テーマ「食べる場からみる社会の変化」
- ◆内容：開講式：「山形学」企画委員  
講師：白壁真理子氏(ボランティア団体「つなぐ」あさがお子ども食堂 代表)  
小川真実氏(地域食堂あまやどり 代表)  
コーディネーター：松尾剛次氏(「山形学」企画委員)

- 13:30～ 開講式
- 13:45～ 講座「食べる場からみる社会の変化」  
第1部 これまでの活動について 白壁氏、小川氏
- 14:40～ 休憩
- 14:45～ 第2部 これからの活動について 白壁氏、小川氏
- 15:25～ 休憩 質問票回収
- 15:35～ 質疑応答
- 15:55～ コーディネーターまとめ
- 16:00 終了

- ◆参加者数：32名

- ◆主催：公益財団法人山形県生涯学習文化財団 後援：山形県教育委員会

- ◆当日の様子

白壁氏は、主催されているあさがお子ども食堂(山形市)の立ち上げのきっかけ、設立までの準備、実際の運営や活動の様子などをパワーポイントを使用しながらわかりやすく解説されました。また、単に食事を提供するだけでなく、お誕生会や季節の行事を大切に、食事以外のイベントや勉強の場も提供するなど色々工夫して、子どもたちに寄り添う活動が紹介されました。6年間で285回、毎週火曜日の定期開催という実績が、子どもたちに対する温かい想いと情熱を物語っていました。

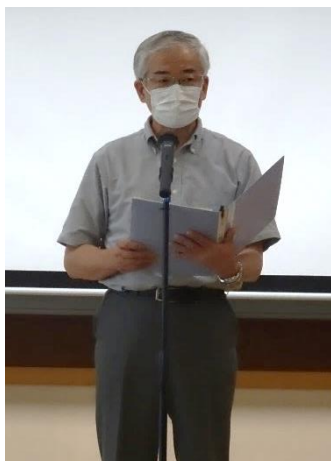
小川氏は、南陽市で実施している地域食堂あまやどりの活動を紹介してくれました。名前に込められた想い、立ち上げまでの道のりや活動内容、特に食事の提供だけでなく、ボランティアスタッフが自分の特技を使ったイベントを企画したり、高校生のボランティア活動の場として、それぞれが活躍できる地域のコミュニティの場にもなっていることをお話してくださいました。

受講生からは、「子ども食堂、地域食堂の名前を聞いたことはあるが、主催者から直接実際の活動内容を聞くことができ、理解を深めることができた」「山形市内、県内にこんなにも多く子ども食堂があるとは知らなかった。大変興味深く勉強になった」「講師の方の取り組み、姿勢に敬意をいただきました」などの声が多く寄せられ好評でした。食の貧困だけでなく、山形県が抱える地域の問題と解決に向けての展望を「食」を通じて考える大変有意義な講座となりました。

### \*参加者の声\*

- ・子ども食堂に関心がありましたが、情報不足と自ら情報を集めるきっかけがなかった。漠然と資金的に無理と頭から考えてしまっていた。開設までのいきさつや準備の具体的なお話を聞いて、自分でも志と仲間がいれば出来るのでは！？という気になりました。
- ・子ども食堂、地域食堂を実際に運営されている方のお話を聞くことができ、今まで思い描いていた活動と違う面を見ることが出来ました。今後見る面が全く違って来たと思いました。
- ・講師お二人の話が非常に具体的で、山形市と南陽市という地域差もよくみえて興味深かった。
- ・二人とも発表上手でした。わかりやすく、順序だてた展開が良かったです。
- ・子ども食堂、地域食堂のことを学ぶことができ良かった。人のため、地域のために何かやりたい人がいらっしやるのですね。若い人達に感謝です。未来に羽ばたく子どもたちを応援してほしいと思います。
- ・子ども食堂、地域食堂の言葉は耳にするが、今まで詳細を理解していなかったなので、今は理解を深めることができました。
- ・講師の方のお話が良かったです。「子ども食堂」と言っても多様性があることを知りました。
- ・子ども食堂という場所が増えているけれど、実際、何がきっかけか、どういう場所なのか、どんな方々が携わっておられるのか、全くと言っていいほど無知でした。今回の講座で実態がわかりよかったです。
- ・実践者のお話は、とても重みがありました。
- ・講師の方の取組み、姿勢に敬意をいただきました。
- ・発表者の準備も大変だったでしょう。分かりやすいまとめ方で、感心しきりです。子ども食堂＝貧困家庭の子が行く所という負の感情を持たれるが、今は誰もが集える“居場所”と捉えてほしいという願いがある一方、少ない席数でもあり、できれば困難な子にきてほしいという心の葛藤を抱えていらっしやるという白壁さんのお話に、聴いてて切なくなりました。
- ・子ども食堂、地域コミュニティについての具体的なお話は、刺激になりました。知ることが大切ですね。役割と支援にも団体によって若干の違いがあるのですね。後半白壁さんのお話の中で、子ども食堂＝貧困という負のレッテル。誰もが来れる居場所であってほしいと思う反面、困難な子に来てほしい思いもあり、自分にも矛盾があるという話が印象的でした。
- ・本来、子ども食堂の世話にならなくてもよい環境が一番。それは国の仕事であるが、国ができないことをボランティアが支えてくれていると感じました。
- ・「親が子どもの食事の世話をするのは当然」「自分ができるから他の人もやって当然」という考えではなく、世の中は多様で、困難に直面している親がいることに気づいてほしいという白壁講師の言葉に、はっとさせられました。

○当日の様子



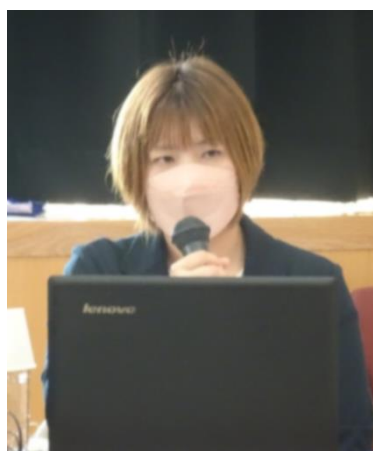
主催者挨拶(専務)



開講式(菊地企画委員長挨拶)・企画委員



講座 (白壁講師)



講座 (小川講師)



講座 (松尾コーディネーター)



講座 (受講生)